



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 愛眼株式会社 上場取引所 東
コード番号 9854 URL <https://www.aigan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々 昌俊
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 雅彦 TEL 06-6772-3383
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	3,532	△2.3	△154	—	△138	—	△160	—
2024年3月期第1四半期	3,614	3.9	△128	—	△115	—	△135	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △130百万円 (—%) 2024年3月期第1四半期 △88百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△8.28	—
2024年3月期第1四半期	△6.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	14,119	11,973	84.8
2024年3月期	14,079	12,103	86.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 11,973百万円 2024年3月期 12,103百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,939	3.6	175	983.9	206	312.7	145	—	7.49
通期	15,469	5.5	211	—	264	—	143	—	7.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 - ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期1Q	21,076,154株	2024年3月期	21,076,154株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	1,668,929株	2024年3月期	1,668,869株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期1Q	19,407,265株	2024年3月期1Q	19,407,557株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻の長期化やイスラエル・パレスチナ地域をめぐる中東情勢の緊迫化などの国際情勢に加えて、国内においては、賃金と物価の好循環による雇用・所得環境の改善や株高による資産効果が期待される一方で、エネルギー・原材料価格の高騰や円安基調に加え、人件費や物流コストの増加などを背景とする継続的な物価上昇圧力が強まる中で、消費者マインドを低下させ、個人消費に与えるネガティブな影響が懸念されるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「お客様の暮らしを、より快適に、より豊かにする企業となることを目指し、安心の技術、納得の商品、気持ちに寄り添うサービスを提供します。」を経営方針として掲げ、「目と耳の健康を守る」ことを社会的な使命と責任と捉え、顧客体験価値の最大化を追求するとともに、アフターコロナにおける事業展開を見据えた取り組みを進めております。また、組織及び人材面では、業務の効率化並びに働き方改革や女性活躍推進などに取り組み、プロアクティブな組織づくりを進めております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、昨年5月の感染症法上の5類感染症への引き下げに伴う行動制限の撤廃により、これまでコロナ禍で影響を受けてきた店舗での対面型販売はほぼ平時の状態に戻ったものの、売上高は3,532百万円（前年同四半期比2.3%減）となり、コロナ禍以前の売上水準には未だ戻っておりません。売上総利益率は、商品仕入コストの上昇、セール等の販売戦略の影響があったものの、一部商品の販売価格の改定や品目別売上構成比の変化などにより0.8ポイント上昇しました。経費面では、主に人件費等の運営コスト面での上昇があったものの、店舗照明のLED化による節電、広告宣伝費や改装費用の圧縮など経費コントロールの徹底に努めた結果、販売費及び一般管理費は2,581百万円（前年同四半期比0.1%減）となりましたが、売上高の減少影響により結果として売上高に対する販管費の割合は上昇しました。

この結果、営業損失は154百万円（前年同四半期は営業損失128百万円）、経常損失は138百万円（前年同四半期は経常損失115百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は160百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失135百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として長年培ってきた安心で快適な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の信頼性と独自性の向上と認知度の拡大に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応し、お客様視点を第一とする商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図ってまいりました。同時に、価値の高い顧客体験を通じて顧客満足度を高め、顧客ロイヤルティを向上させるように、TVCMやラジオCM、新聞折り込みチラシやDM、雑誌や動画、WEB広告やSNSなど幅広いメディアを活用した複合的で最適な情報発信の強化や店舗特性に合わせたマーチャンダイジングの構築を通じて、「愛眼ブランド」の認知度向上に努めております。店舗におきましては、タブレット端末の活用や接客サポートシステムなどDX推進により店舗オペレーションの効率性を高め、お客様との接点を増やすことで、お客様に対する接客・サービスをさらに充実させております。また、アフターコロナへの対応として、通販事業を見直し、お客様の利便性や新しい生活様式に合致した形態により実店舗との連携を深めたネット通販事業の強化に取り組んでおります。

人材教育面につきましては、視力・聴力補正技術、商品提案、接客・サービスに関する従来からの従業員向け教育指導に加えて、2022年に新設された国家検定資格の「眼鏡作製技能士」の取得を順次進めております。

売上高につきましては、社会経済活動の制限撤廃に伴い人流が戻り、アフターコロナ期への移行が進みましたが、全体では前年同四半期比で減収となりました。主力品目のメガネと準主力品目の補聴器は前年同四半期比で減収となり、メガネにおいてはコロナ禍以前の売上水準には未だ戻っておりませんが、補聴器はコロナ禍以前の売上水準に回復しております。準主力品目のサングラスは、行動制限が撤廃され客足の回復が進んだことから、前年同四半期比で大幅な増収となり順調な回復基調にあります。

店舗につきましては、東京都の町田市に1店舗を新規出店し、また、既存店の活性化を目的とした改装を1店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,427百万円（前年同四半期比2.3%減）、セグメント損失は143百万円（前年同四半期はセグメント損失100百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新商品の投入や販売支援を通じて得意先との取引深耕を図るとともに、新規取引先の開拓に努めております。

この結果、売上高は103百万円（前年同四半期比0.5%増）となり、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

当社連結子会社である北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の取締役会の決議に基づき、現在、現地の法令等に従い、解散及び清算へ向けた諸手続きを進めております。なお、最終の清算結了日は、未定であります。

この結果、売上高は0百万円（前年同四半期比74.0%減）、セグメント損失は2百万円（前年同四半期はセグメント損失17百万円）となりました。

なお、売上高0百万円は、2023年12月末の最終注文分を2024年1月に出荷したことによるものであり、第2四半期会計期間以降に売上高が追加で発生することはありません。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は14,119百万円（前連結会計年度末比0.3%増）となりました。流動資産は、商品及び製品の増加、現金及び預金の減少等により7,435百万円（前連結会計年度末比0.6%増）となり、固定資産は、投資有価証券の増加、敷金及び保証金の減少等により6,684百万円（前連結会計年度末比0.1%減）となりました。また、負債合計は支払手形及び買掛金の増加、契約負債の増加、流動負債その他に含まれる未払金の増加、未払法人税等の減少等により、2,145百万円（前連結会計年度末比8.6%増）となり、純資産合計は11,973百万円（前連結会計年度末比1.1%減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2024年5月10日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,360	3,947
受取手形	※ 8	※ 10
売掛金	820	863
商品及び製品	1,929	2,272
原材料及び貯蔵品	22	22
その他	250	320
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	7,390	7,435
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,044	1,044
土地	1,799	1,799
その他（純額）	173	183
有形固定資産合計	3,017	3,027
無形固定資産		
ソフトウェア	18	16
その他	0	2
無形固定資産合計	18	18
投資その他の資産		
投資有価証券	714	759
敷金及び保証金	2,623	2,572
その他	315	305
投資その他の資産合計	3,653	3,637
固定資産合計	6,689	6,684
資産合計	14,079	14,119

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 406	※ 523
未払法人税等	157	51
賞与引当金	54	65
契約負債	283	332
その他	566	655
流動負債合計	1,468	1,627
固定負債		
リース債務	4	6
繰延税金負債	107	119
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	313	309
その他	76	76
固定負債合計	508	518
負債合計	1,976	2,145
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	2,891	2,730
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	14,280	14,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	288
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	35	36
その他の包括利益累計額合計	△2,176	△2,146
純資産合計	12,103	11,973
負債純資産合計	14,079	14,119

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,614	3,532
売上原価	1,158	1,105
売上総利益	2,455	2,426
販売費及び一般管理費	2,584	2,581
営業損失(△)	△128	△154
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	6	6
受取家賃	12	9
その他	6	5
営業外収益合計	26	23
営業外費用		
固定資産除却損	2	1
賃貸費用	7	5
その他	2	0
営業外費用合計	13	7
経常損失(△)	△115	△138
税金等調整前四半期純損失(△)	△115	△138
法人税、住民税及び事業税	22	22
法人税等調整額	△2	△0
法人税等合計	20	22
四半期純損失(△)	△135	△160
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△135	△160

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△135	△160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45	29
為替換算調整勘定	2	0
その他の包括利益合計	47	30
四半期包括利益	△88	△130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△88	△130
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
受取手形	0百万円	1百万円
支払手形	35	30

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	46百万円	42百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売 (注) 3			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,508	103	2	3,614	—	3,614
外部顧客への売上高	3,508	103	2	3,614	—	3,614
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	17	—	17	△17	—
計	3,508	120	2	3,631	△17	3,614
セグメント損失 (△)	△100	△5	△17	△124	△4	△128

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△7百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. なお、「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の当社取締役会の決議に基づき、現在解散及び清算へ向けた諸手続中であります。

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売 (注) 3			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,427	103	0	3,532	—	3,532
外部顧客への売上高	3,427	103	0	3,532	—	3,532
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	14	—	14	△14	—
計	3,427	118	0	3,546	△14	3,532
セグメント損失 (△)	△143	△6	△2	△152	△1	△154

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. なお、「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、2022年11月28日開催の当社取締役会の決議に基づき、現在解散及び清算へ向けた諸手続中であります。